



行田市民大学交流委員会の活動紹介

交流委員会委員長 小林 務

行田市民大学の運営にあたって、交流委員会が所管する事業活動について今回紹介したいと思います。

交流委員会の年間事業は、主に委員会の開催、近隣市の市民大学実施部門との交流、行田子供大学への支援協力、年度末に開催する卒業式・修了式後の合同懇親会の企画・実施となっています。

1. 委員会の開催

28年度の交流委員は、委員長、副委員長2名、委員4名の7名です。男性4名、女性3名で3期生が中心で構成されています。事業計画会議、実施後の反省会など年間7～8回程度開催しています。

2. 他校交流事業の実施

近隣市の市民大学を訪問し、他校の実施方法や、問題点、苦労話など意見交換を行い、行田市民大学の運営に生かそうと毎年実施しています。平成25年度は、東松山きらめき大学、平成26年度は、いきがい大学熊谷学園、平成28年度は、北本学苑(キタガク)を訪問しました。

その他、平成26年と、平成27年には友好都市訪問交流として、桑名市へ運営委員・同窓会役員と共に訪問し、桑名市の歴史や史跡を見学し、親睦を深めました。

3. 「子ども大学ぎょうだ」への支援事業

- ・毎年夏休みを利用して開催される、教育委員会主催の「子ども大学」(募集人員50名、小学4～6年生対象)へ、ものづくり大学・子育てネット行田・行田市民大学が中心となって実行委員会を構成し、協力しています。
- ・市民大学は、「ふるさと学」を担当し、今までに「食育紙芝居」の上演、「行田の昔の道・今の道」「行田の川と自然」「語り部による行田に伝わる昔話」「折り紙教室」などを同窓会クラブや運営委員にお願いして実施し、評価を得てきました。

4. 合同懇親会の企画・運営

- ・年度末の3月に行われる卒業式・修了式当日に、1・2年生による合同懇親会を開催し、皆勤者への図書カードの贈呈や、食事を挟んでの思い出話や感想などを話してもらい、今後の同窓会活動への参加をPRしています。
- ・学んだことを地域で活かしてもらうことをお願いし、生涯学習の一助となるよう今後とも精いっぱい取り組んでいきます。

◇◇行田市民大学同窓会講演会◇◇

「水と闘う忍領の人々」～行田市周辺の治水・利水の歴史

11月29日に元東洋大学教授の松浦茂樹先生をお招きして、標記のタイトルで講演会が開かれました。内容は、河川用語の説明から埼玉県の特徴、忍城の立地特性、中条堤の機能と歴史および荒川、利根川の治水や利水など、埼玉や行田を中心とした幅広い



河川関連の歴史についてでした。今井から上中条・酒巻に到る中条堤こそが、利根川洪水からの埼玉平野防衛の第一線だったこと。恩恵を受けた忍領や下流地域の人々と妻沼村や葛和田村等の遊水地と化す上流地域との堤の高さをめぐっての対立の歴史があったことも語られました。当日、同窓生は勿論、市民の方々も関心を持って多数参加され、実に総数110名以上の参加者になる会となりました。

講義より…「百万都市 江戸の庶民生活」

12月8日(木)2学年対象に立正大学教授の「北原 進」先生を迎えて江戸の庶民生活に関する講義が実施されました。

静かですが弁士を思わせる先生の名調子による講義をお聞きして、江戸情緒に浸ることができました。次の言葉が江戸時代の各地方を表しているという。

・京都の着倒れ・大阪の食い倒れ・江戸の飲み倒れ

京都や大阪は、ある種の晴れやかさを持った言葉なのに、江戸の飲み倒れは、不健康な暗い印象を持って表現されている。当時の江戸の庶民は50～55万人程度で、男が63～52%と次第に改善はしているが、男の数が多かったという。こんなことが江戸の風俗を構成するうえで大きな要素になったという。例えば、吉原や酒、江戸の酒はまずなかったので、上方の伏見や灘の酒が下り酒と呼ばれ、江戸で珍重されたという。町は上水道が完備され、武家屋敷や長屋まで飲水で利用された。



※[ホームページを開くには: **行田市民大学** と入力してください]